

三四 「那須系図説」

(1) 那須資実、明応年中に烏山城を築き下境より移住したという(「資実」の項)。

伊予守、烏山城ノ元祖。始ハ下境ニ住ス。明応年中烏山城ヲ築キテ移住ス。此頃ヨリ下境稻積城廢ス。那須記ニハ、応永二十四年、沢村五郎資重烏山城ヲ築クトアリ。此説疑ハシ。延宝年中、板倉石見守重道侯ノ時、泉溪寺ニ納メシ烏山八景ノ詩集ノ跋ニハ、資隆ノ裔孫資実、其子資房ト此城ヲ築キテ住ストアリ。元禄六癸酉年三月、永井伊賀守直敬侯ノ寄附シ給ヒシ恩田村ノ御靈ノ宮ノ香炉ノ銘ニハ、今ノ烏山城ハ元川東下境村ニアリ。後沢村資重、移城烏山ト有り。右両説何レガ是ナルカ未詳、按ズルニ永井侯ハ那須記ヲ取り、沢村資重烏山城ヲ築クトシ給ヒシナラン。此系図ニハ板倉侯ヨリ納マリシ詩集ノ跋ヲ以テス。

(2) 那須資晴、豊臣秀吉の小田原城攻略により烏山城を棄て佐良土に退いたという(「資晴」の項)。

天正十八寅年、豊臣秀吉公小田原征伐ノ為メ、大軍ヲ引率シ既に豆州三島ニ陣ス。時ニ大関安碩、^(那須)資晴ヲ勸メテ三島ニ至ラシム。資晴不応、故ニ大関、芦野、大田原、福原、伊王野、千本等、密談シテ三島ニ至リテ、秀吉公ニ拝謁ス。秀吉公喜ンデ本領安堵之朱印ヲ賜フ。此ノ時ヨリ各直參ト成ル。然ルニ同年七月ニ至リ、北条氏政、戦尽キ切腹シ、小田原既ニ落城ス。

因テ資晴モ烏山ヲ棄テ、佐良土ニ退ク。太閤織田信雄ニ下知シテ、令烏山城預、後又成田下総守氏長ニ賜フ。太閤秀吉公、奥州平治ノ時、下野大田原城ニ旅宿ス。此時モ資晴称病不出。其後資晴先非ヲ悔イテ至伏見、石田、増山等ニ就テ、漸々ニシテ秀吉公ニ遂拝謁、佐良土ニテ五千石ヲ賜フ。慶長十四年十二月七日、五十七歳ニテ卒ス。法名不携院殿休山慶羅大禅門。

【補注】

「那須系図説」は、滝田永世氏所蔵。昭和二十三年(一九四八)発行の蓮実彊『那須郡誌』に全文翻刻掲載されている。この系図の末尾には那須資隣の細注があり、「宝永六丑年之武鑑ニ、紋一菊、屋敷ハ元誓願寺前」と記されていることより、本系図は江戸時代中期以降に成立したと思われる。